

理を行なう。

分布理論、指数分布、分散分析、回帰分析、検定等の基礎的統計量の導出を行なうことを通じて、経済統計データが何を意味するかを理解し、その限界を認識し、その使用方法を批判できる素養を培っていく。学生が統計データあるいは統計量をすべて正しいと信じたり、逆に何事をも表現しえないと考えるなど無知・無批判な徒に陥ることなく判断力に富んだ経済学徒に育っていくことをめざしている。

以上のように、本学では、ORそのものの教科が体系的に整備されておらず、ゼミの中で必要に応じて各種手法が取り入れられるにとどまっている。

しかし、今後本格化する情報化社会の中で対応できる教育環境を考えるならば、情報関連科目の充実もさることながら、OR分野と関連分野の研究者とのより緊密な連携をはかりつつ、本来の「OR教育の充実」をめざして体系的に整備してゆかなくてはならないと思う。

(阿部秀明)

桃山学院大学

—河内平野に囲まれ、一見、緑多き、民主的大学—

まず、当大学の位置について、少し説明をしておいた方がいよいです。南海電車の高野線で、大阪のミナミの中心地なる難波から、およそ30分、狭山駅で下車し住宅街を通り、アンデレ橋を渡ること、15分ほど歩いたところに、しょうやかな建物が見えます。少し小高い場所、研究室の窓越しに、狭山池とPL教団の塔がみえ澄み切った秋空の下でみると、それなりにのどかな景色と言えましょう。

そんななかで、当大学は、社会学部、経済学部 それに、経営学部の3学部から成っており、また近々、新学部の設立も予定されています。教員数は現在3学部を合計して100余名で、平均年齢は35歳前後でしょうか。本学は元来、英国国教会の設立によっており、明治時代の英語塾が原点になっております。

このように大学としては結構古くなりましたが、いかにせんまだ、大型計算機がなく、もっか、最も関心のあるのは来年4月より導入される『HITAC M-240D』をどう利用できるかといった案配で、会員諸氏には、やや恥しい限りです。もっとも、本学は、LL設備といった点では結構最先端(?)をいていたようで、かなりいろんな授業で使われております。

学内のOR関係者は、山本(紀)教授、鬼塚教授、岸本助教授、並川教授、伊藤教授といったところ、かく言う、わたくしは、専門は、管理会計です、そのなかから除きます、隠れOR教徒とでも言ったほうがいでしょう。なお情報処理関係の科目や授業については、

多分これから、稲別学長の下で、大いに充実すると期待しております。今年、情報システム関係で教員の1名の増員予定があり、目下は、大型新人の出現を期待するといったところです。

さて、さいごに私の、もっかの研究について触れさせてもらいます。

この、5年ほど、エイジェンシー理論による経営管理システムの分析に興味をもってきました。そこで、やれグローブスメカニズム、振替価格さらには分権的組織の費用配賦などをやってきました。しかし、どうも机上の空論という感も強く、また最近、Staford Beer等のサイバネティックの研究と管理会計との関わりについても興味のあることから、ここで、少し企業の具体的な会計管理システムや経営管理システムの運用と、そこでの人間の問題をシステム論的な発想をなんとか生かしながら研究してみようかと思っております。会員の皆様のおかげで、研究分野の近い方がありましたら、どうか桃山までご一報ください。

〒588 大阪府堺市西野237-1

桃山学院大学 経営学部 浅田孝幸

Tel. 0722-36-1181